

令和元年度いばらきっ子郷土検定問題 解答と解説

笠間市 解答と解説

組	番	氏名
---	---	----

番号	解 説	答
1	正式競技として、笠間市民球場では軟式野球、央戸ヒルズカントリークラブではゴルフ、茨城県狩猟者研修センター射撃場ではクレイ射撃が開催されます。なお、デモンストレーションスポーツとして、合気道(演武)が笠間市民体育館で開催されます。	2
2	市は、明治時代から続く老舗旅館として親しまれた笠間地内の旧「井筒屋」を、「かさま歴史交流館井筒屋」として再整備しました。木造3階建ての本館を後方に約14メートル曳家(ひきや)で移動し、耐震性能のある新たな基礎の上に固定しました。曳家で空いたスペースには観光客や市民が集い、イベントもできる交流広場を設置しました。1階には観光インフォメーション、2階には歴史展示コーナー・会議室、3階にも会議室を備えています。	4
3	国体期間中選手を見守る「炬火(きよか)」の採火式を、創建651年と伝えられる笠間稲荷神社の祭事「献燈祭(けんとうさい)」において執り行います。拝殿から御神火(ごじんか)をいただき笠間焼の受け皿に採火することから、笠間市の炬火名を歴史と伝統「かさまの火」としました。	2
4	「福ちゃんの森公園」は、エコフロンティアかさま建設に伴う地域振興事業として「堂ノ入池(どうのいけ)」周辺を整備し、世代を超えた交流ができる憩いの場の提供を目的に設置した公園です。堂の入池(どうのいけ)、せせらぎ水路、ドッグラン、屋外集会所、バーベキュー施設、多目的室などがあります。	1
5	笠間市の木に制定されている木は、サクラです。笠間市内には、愛宕(あたご)山、北山公園、佐白(さしろ)山など、桜(さくら)の名所が数多くあり、春には花が市内全域を網羅して咲き誇ることから、各所で桜まつりが行われています。また、サクラは、旧岩間町の木であったことから、市民にとって極めて身近な樹木といえることから、笠間市のシンボルとしてふさわしい木です。	3
6	笠間焼は、江戸時代中期の安永年間(1770年代)から作り始められました。箱田(はこだた)村の名主久野半右衛門道延(くの はんうえもんみちのぶ)が、近江信楽(しがらき)の陶工(とうこう)長右衛門(ちようえもん)を招いて窯(かま)を築き陶器を焼いたのが起こりとされています。	4
7	ケヤキの木が天然記念物となっているのは、市内では小原(おばら)神社の3本のみです。鴻巣(こうのす)地内の高房(たかふさ)神社はシイ、上郷(かみごう)地内の羽梨山(はなしやま)神社はスギ、福原(ふくはら)地内の田上(たがみ)神社は吾国山(わがくにさん)のブナ林が、それぞれ市指定文化財(天然記念物)となっています。	2
8	六所神社は、源義家(みなもとの よしいえ)にまつわる伝説が残っています。明治6年(1873年)に下郷(しもごう)地区の五社を八幡神社(上町(かみちよう))に合祀(ごうし)し、八幡神社を六所神社と改称したことに始まります。五社とは古山(こやま)の鹿島神社、大網(だいなみ)の雷(いかずち)神社、新渡戸(にわつど)の稲荷神社、茅生(かよう)の星宮(ほしのみや)(現・妙見神社)、室野(むろの)の熊野神社です。八幡神社には、源義家にまつわる伝説が残っています。	3
9	笠間市は、台湾からの観光誘客を促進するため、2018年(平成30年)8月、台北市内に「台湾交流事務所」を設置しました。笠間市職員が駐在し、現地で台湾人の観光ニーズなどの情報を収集、分析したり、笠間の魅力を発信したりする活動拠点として整備します。	2
10	笠間市で一番高い山は、難台山(なんだいさん)(553メートル)です。	3
11	「石の百年館」という名称には、約100年にわたり先人たちが築き上げた稲田地区の採石の歴史を広く後世に伝え、未来へ向かって100年先の発展につなげたいという願いがこめられています。また、外壁の一部には、結城紬(ゆうきつむぎ)にもみられる日本伝統の「杉綾模様(すぎあやもよう)」が取り入れられ、稲田石材業の加工技術の高さを物語っています。	1
12	鶴田徳三郎(つるた とくさぶろう)(1914年～2001年)は1945年(昭和20年)、以前から希望していた花作りに取りかかりました。秋ギクを栽培したところ、水戸の市場で評判が良く、翌年からは新品種を取り入れ、生産量を増やしてきました。菊栽培が地域に広まった結果、随分附(なむさんづけ)や湯崎(ゆざき)などが産地となりました。	4
13	笠間藩士の五男として誕生した小野友五郎(おの ともごろう)は、そのたくいまれな算術(和算)の才能を買われ、24歳の時に幕府から江戸屋敷勤務を命ぜられました。当時、笠間藩でも下級クラスの武士が幕府に仕えることは極めてまれで、小野の能力の高さを物語っています。幕府では暦作りのための測量に力を発揮し、1860年(万延元年)には勝海舟(かつ かいしゅう)とともに「威臨丸(かんりんまる)」に乗り込み、アメリカへの渡航を果たします。	4
14	令和元年6月1日現在(推計値)では、合計74,531人で約7万5,000人です。男性は36,503人、女性は38,028人です。世帯数は、29,010世帯です。	2
15	笠間市は茨城県水戸市、石岡市、桜川市、小美玉市、茨城町、城里町、栃木県茂木町の7つの市町と隣接しています。	3
16	愛宕山の山頂にある飯綱神社の悪態祭りです。悪態祭りでは13人が白装束で天狗の格好をし、13の天狗のほころにお供え物をして回ります。この時に参詣人は天狗に向かって言い放題の悪口を言い、天狗に邪魔されながらお供え物を奪い合うという変わったお祭りです。このお供え物を奪い取った人は、幸せになれると言われていました。このようなお祭りは日本中でもめずらしく、日本三大奇祭の一つと言われています。	1
17	常磐線が友部、岩間の2駅、水戸線が央戸、笠間、稲田、福原の4駅で、合計すると6駅になります。	4
18	笠間地内に、『忠臣蔵』で知られる大石内蔵助(おおいし くのすけ)の祖父で、笠間藩家老だった大石良欽(おおいし よしたか)の邸宅跡「大石邸跡」があります。仕えていた浅野氏は、笠間藩から赤穂(あこう)藩に転封され、57年後に浪士の討ち入り事件が起こります。赤穂市は、兵庫県の南西部、岡山県との県境に位置する市で、瀬戸内海国立公園の一部であります。古くから塩田が栄え、生産されている塩は「赤穂の塩」として全国に流通しています。	2
19	1857年(安政4年)、笠間藩士山下重常(やました しげつね)の長女として生まれた山下りんは、明治初頭に東京で絵の勉強を始め、紆余曲折(うよきよくせつ)を経て正教会のイコン画を描くことになりました。ハリストス正教のニコライ神父の勧めによりロシア留学後、神田駿河台(かんだするがだい)のニコライ堂の堂内壁画の一部を受け持ちました。晩年は笠間に戻り、21年間画筆を一切とらずに、1939年(昭和14年)、82歳の天寿を全うしました。	3
20	カタクリは、古くはカタカゴ、またはカタコといい、多年生の草本で山野に生育します。地下には長楕円形の鱗茎(りんけい)があり、これから良質の澱粉(でんぷん)が取れるので片栗の名もつけられたといわれています。4月初め、茎の先に一個、下向きに美しく可憐な花を咲かせます。吾国山(わがくにさん)は信仰の山でもあり、植物を大切にしてきた貴重な生育地となっています。	1
21	日本三大稲荷の一つ「笠間稲荷神社」にちなみ、笠間いなり寿司推進キャラクターとして「笠間のいな吉」は誕生しました。現在は笠間特別観光大使として、「笠間の素晴らしさ」や「笠間いなり寿司」をPRするため活躍しています。	2
22	現在の県立こころの医療センター敷地内にあった旧海軍基地の「筑波海軍航空記念館」は、「永遠の0(ゼロ)」の主人公・宮部久蔵(みやべ きゆうぞう)を岡田准一(おかだ じゅんいち)が教官として勤務していたという設定の地です。映画『永遠の0』の筑波海軍航空隊のシーンのロケも、この本物の跡地で行われました。1934年(昭和9年)、西茨城郡央戸(ししど)町(現・笠間市)の国立種羊場(しゅうじょう)跡地に開かれた霞ヶ浦海軍航空隊友部分遣隊をルーツとし、戦争末期には特別攻撃隊を編成しました。	4
23	笠間市の鳥に制定されている鳥は、ウグイスです。笠間市全域に生息しているウグイスは、鳴き声が美しく、自然環境に恵まれた笠間市をイメージできます。また、ウグイスは、旧友部町の鳥であったことから、市民にとって身近で親しまれている鳥といえます。	1
24	ヒメハルゼミは、笠間市片庭の楞厳寺(りょうごんじ)と八幡神社境内に生息するセミです。地元では、大蟬(おおぜみ)と呼んでいますが、体は小さく、雄は体長24ミリメートル、雌は細長い産卵管(さんらんくわん)があって27ミリメートル位です。沖縄・奄美大島・九州・四国・本州に分布し、笠間市が太平洋側の分布の北限とされています。6月下旬から7月下旬まで発生し、鳴き声は聞こえますが、鳴いている姿はほとんど見ることはできません。一匹が鳴き出すと一斉に合唱するという珍しい習性を持っています。	3
25	「地域医療センターかさま」は、市民が住み慣れた場所で安心して生活ができるよう、保健(予防)・地域医療・介護・福祉の連携により市民サービスの向上に努めるという基本方針のもとつくられました。耐震性に優れ、災害時における被災者の医療、救護などにも対応でき、バリアフリー化やユニバーサルデザインにも配慮した施設になりました。	4